



ミウラグループCSR報告書

CSR Report 2018

熱・水・環境のベストパートナー



ミウラは Fun to Share に参加しています



未来の
ために、
いま選ぼう。



印刷日 2018年6月 3001
本冊子の無断転載を禁止します。

熱・水・環境のベストパートナー



三浦工業株式会社



会社概要

- 社名：三浦工業株式会社
- 事業内容：小型貫流ボイラ・舶用補助ボイラ・排ガス(廃熱)ボイラ・水処理装置・食品機器・滅菌器・薬品等の製造販売・メンテナンス・環境計量証明業等
- 所在地：愛媛県松山市堀江町7番地 〒799-2696
- 代表者：代表取締役 社長執行役員 CEO 宮内大介
- 創立：1927(昭和2)年12月1日
- 設立：1959(昭和34)年5月1日
- 資本金：95億4,400万円
- 発行済株式総数：12,529万株(東証一部)
- 証券コード：6005
- 連結売上高：1,248億83百万円(2017年度)
- 従業員数：連結5,945名(2018年3月31日現在)
グループ5,552名(うち海外1,567名)
(正社員・準社員のみ)



グループ会社

国内

- 三浦工機株式会社
- 三浦アクアテック株式会社
- 株式会社三浦マニファクチャリング
- 三浦マシン株式会社
- 三浦環境マネジメント株式会社
- 株式会社ミウラ・エス・エー
- ミウラジョブパートナー株式会社
- アイナックス稻本株式会社 他

海外

- 韓国ミウラ工業株式会社
- 三浦工業(中国)有限公司
- 台湾三浦工業株式会社
- ミウラサウスイーストアジアホールディングス社
- ミウラシングポール社
- ミウラインドネシア株式会社
- 三浦工業(タイ)株式会社
- マルセエンジニアリング(ベトナム)株式会社
- ミウラインターナショナルアメリカス株式会社
- ミウラアメリカ株式会社
- ミウラカナダ株式会社
- ミウラボイラメキシコ株式会社
- ミウラボイラブラジル有限会社
- ミウラネザーランド株式会社
- 三浦トルコ熱システム工業有限会社

事業概要

ミウラグループは、ボイラで培ってきた「熱・水・環境」の技術を活かし、「電気・空気」まで含めた幅広い分野で事業を展開しています。省エネルギー・CO₂の排出量低減を実現する技術、熱エネルギー利用や水処理の技術を活かした船舶用の機器や、食品の加熱加工や冷却、また医療器具等の洗浄や滅菌、業務用洗濯・乾燥機等さらには環境関連技術を軸とした事業領域で、国内外のお客様の抱えられている問題を解決する製品とサービスをお届けしています。

ミウラグループは 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献します

国連が2015年9月に採択した「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」には、2030年に向けて、貧困・不平等・気候変動などの世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにし、17の目標と169のターゲットを掲げています。

ミウラグループは、「環境・水・エネルギー」など当社の事業に関連の深い目標をはじめとする重要課題を決めて積極的に取り組み、持続可能な社会の形成に貢献できるよう活動していきます。



CONTENTS

ミウラグループの概要	1
トップコミットメント	3
ミウラグループのCSR	5
[特集1]ミウラショールーム	7
[特集2]ミウラのダイバーシティ・マネジメント活動	9
[特集3]製品による環境貢献	11

E 環境報告

環境マネジメント	13
環境教育	14
汚染防止の取り組み	15
自然との共生	15
省エネルギーの取り組み	16
省資源の取り組み	16

G ガバナンス

コーポレート・ガバナンス	17
コンプライアンス、リスクマネジメント	18

S 社会性報告

お客様への責任と行動	19
株主・投資家への責任と行動	21
取引先への責任と行動	22
地域社会への責任と行動	23
従業員への責任と行動	26
財務・非財務データ	27
第三者意見	29
第三者意見を受けて	30

熱・水・環境の分野で、環境に優しい社会、 きれいで快適な生活の創造に貢献します。



三浦工業株式会社
代表取締役 社長執行役員 CEO

宮内大介

「環境に優しい社会」

「きれいで快適な生活」とは

人々が健康で安心して暮らすためには、自然からの恵みをいつまでも享受できるように取り組んでいかなければなりません。一度与えられた恵みは無駄なく活用し、また、次の恵みを生み出せるかたちで自然にもどす。この循環が実現される社会を「環境にやさしい社会」と定義しています。澄んだ水や空気は心を穏やかにし、穏やかな心は、自分自身だけでなく周りを生き活きさせ、快適な空間へ導きます。ミウラグループが目指す「きれいで快適な生活」とは、私たちの技術により生み出された製品やサービスを通して提供される安全で安心かつ心と体が健康で豊かな環境を意味します。

ミウラグループが提案する「トータルソリューション」は、工場を1枚のジグソーパズルに見立て、1つずつ組み合わせながら、自分たちが提案できるピースを増やす取り組みです。ボイラを核として周辺機器をつなぐことにより、お客様の抱えられている工場全体の問題を解決することを目的としています。昨年、業務用洗濯機業界最大手のアイナックス稻本株式会社をグループ化したのも「トータルソリューション」の実例で、ボイラで培った技術をベースに、ボイラと蒸気、水のラインでつながっている機器と一緒にエンジニアリングして、個々の製品の特長にシステムとしてのさらなる価値を付加してお客様に提供しようという試みです。私たちは日頃より、お客様からいただいた「信頼」にお応えするために、常にお客様目線を忘れてはならないと考えています。メンテナンスを通じ、お客様のそばで、お客様の声を聞き、お客様の抱えている問題を一緒に解決する。そして、お客様に喜んでいただけることが、社員の喜びであり、社会貢献であると考えています。

「働き方改革」への取り組み

お客様の信頼を得るために、経験を積み、質の高いサービスの提供が必要不可欠です。重要なことは、従業員同士がしっかりとコミュニケーションをとり、意思疎通が図れて働きやすい環境であることです。私たちミウラグループはモットーである「我々はわが社を最も働きがいのある最も働きやすい職場にしよう」を掲げ、従業員の多様性を尊重し、コミュニケーションがとれる職場環境の整備にも注力しています。現在ミウラグループで働く外国人は約1,400名となり、わが社のグローバル化の促進には欠かすことのできない人財です。また、2017年には特例子会社「ミウラジョブパートナー株式会社」を設立し、それぞれの個性を活かせる職場づくりを積極的に進め、さらにはワーク・ライフ・バランスの推進や育児・介護など事情を抱えた従業員が活躍できるような職場の実現にも注力しています。2018年度からは、フレックスタイム制の導入や時間単位の有給申請など制度を充実させると共に、信頼・連帯感・誇りで結ばれる風通しの良い、コミュニケーションがとれた職場の実現を常に目指しています。

「ミウラらしさ」の魅力発信

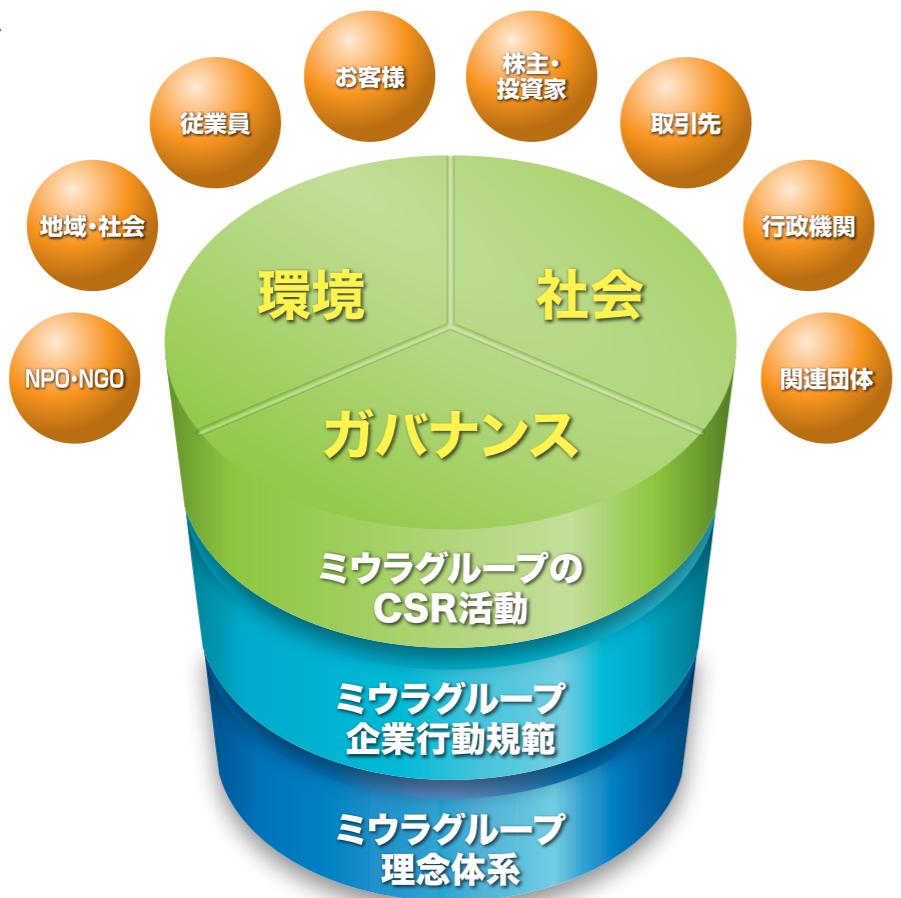
おかげさまで、私たちミウラグループは2019年設立60周年を迎えます。その間、ボイラを通して日本の産業の発展を裏方として支えてきました。今日では日本のみならず、世界中に良質な蒸気をお届けしています。さらにボイラだけではなく水処理装置をはじめ「熱・水・環境のベストパートナー」として多彩な商品でトータルソリューションを展開しています。そんなミウラの過去、現在、未来を世界のお客様に分かりやすくお伝えすることで愛される企業を目指し、本社敷地内に大型ショールームをオープンいたしました。多くの方にご覧いただきミウラファンの輪を広げてまいります。今後のミウラグループの取り組みにご期待いただきますと共に、引き続き、皆さまからの一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

ミウラグループのCSR

CSRの体系

ミウラグループは理念体系を基盤とした、工場全体の省エネルギーを推進するトータルソリューション提案を中心にさまざま事業活動を行っています。それらを通して「環境」「社会」「ガバナンス」の分野すべてのステークホルダーの皆さんに対し、持続可能な社会の発展に貢献する企業を目指しています。

■CSR活動の枠組み



■ミウラグループ企業行動規範

1. 法令等の遵守 <ul style="list-style-type: none">国内外の法令を遵守することはもちろん、企業倫理に照らして誠実かつ公正に業務を遂行します。国際的な事業活動においては、国や地域の文化・慣習を尊重します。	2. 安全性の重視 <ul style="list-style-type: none">安全性を第一に考えたものづくりを行います。健康で安心して働ける、最も働きがいのある職場づくりに努めます。	3. お客様の満足・信頼 <ul style="list-style-type: none">社会的に有用で高品質の製品やサービスを創出し、お客様に満足をお届けしてまいります。最高のテクノサービスを追求し、お客様から信頼される企業へと進化発展を遂げることを目指します。
4. 人権の尊重 <ul style="list-style-type: none">従業員の人格、個性を尊重し、自由かつ公平な職場の実現に努めます。人種、国籍、民族、宗教、信条、性別など、非合理的な理由により差別的な取り扱いは行いません。	5. 取引ルールの遵守 <ul style="list-style-type: none">公正で自由な競争に基づく事業活動を行います。取引先と良好な信頼関係を築き、ベストパートナーを目指します。	6. 環境問題に対する取り組み <ul style="list-style-type: none">環境への配慮を重視した製品・サービスを開発、提供し、地球環境保全に貢献する企業を目指します。事業活動から生じる環境への影響を考え、環境負荷や環境リスクの低減に努めます。
7. 社会貢献・反社会的勢力との関係 <ul style="list-style-type: none">「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。反社会的な活動を行う団体や勢力とは、一切の関係をもちません。	8. 企業情報開示・情報管理 <ul style="list-style-type: none">社会が必要とする企業情報を適正かつ適時開示し、開かれた企業を目指します。個人情報やその他の重要な秘密情報は、細心の注意をもって管理し、その保護に努めます。	

ESG情報とSDGs

ミウラグループは2019年に設立60周年を迎えるにあたり、「環境」「社会」「ガバナンス」それぞれの分野における100年企業に向けてのビジョンを従業員が認識すると共に、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」にあげられる世界を取り巻くさまざまな社会的課題の解決に向けて、ミウラグループの事業内容がどのように貢献していくのかを明示し、今後も企業としての責任を果たしていきます。

ESG分類	該当するSDGs	取り組み項目	掲載ページ
E nvironment 環境報告	6 安全な水とトイレをみんなに 7 持続可能なエネルギーをみんなに 9 食糧と供給チェーンの安全を 12 つくる責任 つかう責任 13 生産と消費に及ぼす影響を 14 海洋を大切に 15 陸の豊かさを守る	環境に配慮した製品開発 汚染の予防活動 化学物質管理の推進を図る 環境保全活動を通じ自然との共生を図る エネルギーの有効利用を図る 工場内の排出物のリユースおよびリサイクルの促進を図る 資源の有効利用を図る	11-12
G overnance ガバナンス	12 つくる責任 つかう責任 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう	コーポレート・ガバナンス コンプライアンス、リスクマネジメント	17 18
S ociality 社会性報告	4 良い教育をみんなに 5 ジュニア世代を育てる 8 働きがいも経済成長 10 人や国の平和を守る 11 住み続けられるまちづくり 13 地域社会に貢献する 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう	お客さまへの責任と行動 ● 製品・サービスの品質向上による顧客満足の提供 株主・投資家への責任と行動 ● 企業価値の最大化を図り、透明性を高め、開かれた企業を目指す 取引先への責任と行動 ● 法令・社会規範の遵守、環境保全、品質保証など、取引先との相互理解のもとに遂行 地域社会への責任と行動 ● 各国・地域の文化・歴史・法令を尊重し、地域への貢献に取り組む 従業員への責任と行動 ● 「働きがいのある、働きやすい職場づくり」を目指す	19-20 21 22 23-25 26

特集1

[ミウラショールーム]

進化を続ける「トータルソリューション」を世界のお客様へ発信

2018年6月1日、本社のある愛媛県松山市にミウラグループの新しいシンボルが完成しました。

熱・水・環境の分野から発展した技術や歴史、環境保全へ貢献するさまざまなソリューション提案を分かりやすく紹介し、

世界のお客様にミウラグループをより理解いただけるショールームとなっています。



施設の概要

- 着工／2017年3月 完成／2018年5月
- 建築面積／ショールーム棟：約400m²、事務所西棟：約1200m²
- 延床面積／ショールーム棟：約770m²、事務所西棟：約4600m²

ウェルカムゾーン ショールーム2F

映像とプロジェクションマッピングを組み合わせたダイナミックな演出。ボイラをはじめ、水処理装置や食品機器など熱・水・環境、さらには電気・空気の分野でも多彩な商品をご提案し、皆さまの暮らしを支えているミウラをお見せします。



トータルソリューション ショールーム1F

さまざまな場面で人々の豊かな暮らしを支えるミウラのトータルソリューションを、7×4メートルの大壁面にイラストで表現。お客様をトータルソリューションワールドへお連れします。



オンラインメンテナンス ショールーム1F

ミウラ独自のオンラインメンテナンス体制は24時間365日、安心・安全をお届けしています。実際のメンテナンス対応の様子をライブ感あふれる映像で紹介します。



VOICE 水に浮かぶショールーム

この建物の建築コンセプトは「水に浮かぶショールーム」です。環境の象徴としての「水」の上に三浦工業様が持つ技術の結晶である「ショールーム」を浮かべています。建物を事務所西棟とショールーム棟に分けてブリッジでつなぐことで、来訪者が水盤際を渡るようにし、ショールーム棟の建物南端を浮かし、ガラスを挿入することで展示室内に水面に反射した柔らかい光を取り込む等、主要なシーン転換となる場所で展示経路に水景を取り込みました。また、事務所西棟は3、4階のオフィスを含めて建物全体を吹き抜けでつなぐことで水盤のきらめきを感じられる一体空間を目指しました。この吹き抜け空間は換気

機能付きトップライトを有しており、執務空間への省エネ採光や、中間期における自然換気を行うことができる、「光」と「空気」の通り道としています。また事務所西棟南側のアルミシェードは執務環境に対する直射日光を制限し、日射負荷を低減しています。その他この建物は、電気設備の高効率トランスや、LED照明器具の採用、節水型衛生器具、全熱交換器設備など、全体が環境技術の結晶にもなっています。「水」を通して展示と建築が融合した豊かな空間体験を通して、三浦工業様がこれまで培われた先進的な技術や精神性を感じ取っていただけるようなショールームを目指しました。



株式会社 竹中工務店
大阪本店 設計部
設計第6部門
設計2グループ
野村 直毅 様

特集2

[ミウラのダイバーシティ・マネジメント活動]

「最も働きがいのある 最も働きやすい職場」の実現に向けて

ミウラグループでは従業員の多様な働き方を尊重し「働きがいのある働きやすい職場づくり」の実現に向けて、女性活躍、外国人雇用、障がい者雇用に対して積極的に取り組んでいます。持続可能な経済成長を維持しつつ、すべての従業員に生産的で働きがいのある仕事ができる環境を整えるためのミウラグループでの取り組みを紹介します。

〈責任者コメント〉

ミウラのダイバーシティ・マネジメント活動への取り組みは2007年女性活躍推進課の設立が始まりました。設立当初は、女性のライフワークの変化に対応した制度が利用されていない現状がありました。現状にあった制度を当事者が決めることで、利用者が増加し、女性が活躍できる基盤を整えてきました。それ以外にも外国人の積極的な雇用や2017年には特例子会社

として障がいのある方の雇用促進のためミウラジョブパートナーを設立しました。近年では男女を問わず、職域を超えて活躍したい人財を社内公募で募り、個人のスキルアップと会社として新たな価値の創造を目的とした取り組みもスタートしました。多様な働き方に対応できる会社として今後もさまざまな制度の構築を積極的に行って、より働きやすく働きがいのある職場を目指します。



人財開発部
部長 谷水 恭子

女性活躍推進

女性従業員数の推移

	2004年度	2007年度 (女性活躍推進課設立)	2017年度
管理職	0名	0名	15名
役職者	18名	91名	211名
総合職	33名	47名	126名

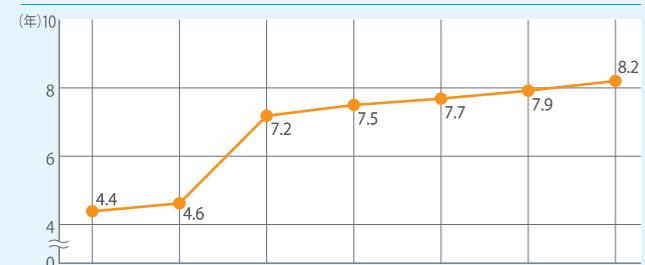
※三浦工業 ※各年度4月1日付けデータ

制度の利用状況

	2004年度	2008年度	2017年度4月時点
産休・育休	2名	9名	53名
時短勤務	—	2名	75名

※時短勤務は2008年運用開始 ※2014年3月より育児休業1日目を有給化。男性の育休取得を後押し

女性従業員勤続年数の推移



事業所内保育所を共同運営

ミウラグループでは、本社のある愛媛県松山市に事業所内保育所「きらきらキッズ」があり、近隣事業所との共同運営です。男女問わず、各社の従業員が利用可能で、育児休業からの職場復帰をサポートしています。



事業所内保育所「きらきらキッズ」

認定および受賞の状況

女性活躍や働きやすい環境へ向けての取り組みが認められ、2017年12月に三浦工業が「えるぼし(二つ星)」認定を取得。また、三浦工業と三浦マシンでは「くるみん」認定を受けており、その他にもさまざまな賞を受賞しています。



(左)ひめりット事業所表彰
(中)均等・両立推進企業表彰
(右)女性活躍推進・子育て支援リーディング企業表彰
最優秀賞

■ミウラ独自の制度について

従業員の多様な働き方を尊重し、さまざまな独自の制度を制定しています。

- 時短勤務の対象年齢を小学校3年までに引き上げ
- 再雇用制度
- マタニティ制服貸与
- 介護短時間勤務制度
(取得期間を365日へ拡大し、取得回数の制限を排除)
- 看護などに使える積立有給制度
- 旧姓使用・私服通勤
- 勤務時間中の不妊治療の通院
- 入社1年目のメンター制度
- フレックスタイム制度
- ゴールデンウィーク休暇

外国人雇用

雇用の状況

現在、ミウラグループ全体で働く外国人は1,400名余りで、三浦工業でも8名の外国人従業員が、設計、研究、商品開発、サービスエンジニア、駐在員として活躍しています。

VOICE

日本と母国との架け橋となる仕事



シンガポール駐在部
入社3年目、出身国:マレーシア
Mohamad Rizwan
(モハマド・リズワン)

障がい者雇用

特例子会社ミウラジョブパートナー株式会社について

ミウラグループは、障がい者の活躍の場を広げ、雇用の促進および安定を図るために、2017年2月付けでミウラジョブパートナー株式会社を設立し、同年5月に特例子会社の認定を受けました。

事業内容は、ミウラグループの清掃や工場で使用する軍手類の洗濯業務、印刷物の製本、加工部品の検品業務、図面の電子データ化などです。今後は、事務所棟や事務所西棟や北条工場など、さらに清掃業務の範囲も拡大すると共に、新たな業務の拡充を進めています。

【会社概要】

代表取締役社長
福島 広司

従業員数15名
(2018年3月時点)



ミウラジョブパートナーのHPを開設しました!

女性技術者の交流

2017年10月、一般社団法人日本機械学会の企業訪問があり、当社の紹介や工場見学に加え、新理事長が機械学会初の女性ということで、ミウラの女性技術者5名との交流会を行いました。現状報告や、課題と解決策などお互いの意見を交わし、今後、女性技術者がどう活躍していくかなど、これからの発展につながる交流会となりました。



交流会の様子

障がい者従業員の活躍

ミウラグループでは、従業員向けに手話の講習会や、CADを使った図面の作成、製品の木枠梱包など、さまざまな業務を行っています。従業員同士がお互いを尊重し合い、仕事を通じて成長できるよう多様性に適応した職場環境づくりに取り組んでいます。



製品の木枠梱包



CADを使った図面の作成

特集3

[製品による環境貢献]

環境に優しい社会、きれいで快適な生活の創造に貢献する製品を創出

ミウラグループは「熱・水・環境のベストパートナー」として、環境に優しい社会と、きれいで快適な生活の創造に貢献するために、熱・水・空気・電気すべての資源を有効に効率的に使える提案をし、お客様の抱えられている問題を解決する製品、サービスをお届けします。

**クリーニング機器の最大手アイナックス稻本株式会社が
ミウラグループの一員に**

「洗い」を通じて「きれい」で「快適」な社会に貢献する企業として

アイナックス稻本は、ホテルや病院などで使用するシーツ・タオル、飲食店でのおしづり・ナプキン・テーブルクロス、家庭からクリーニングに出されたワイシャツ・スーツなど、普段何気なく使っている身近な物を洗濯する洗濯工場に対し、工場設備一式を供給する総合エンジニアリング会社としてさまざまなソリューションを提供しています。

業務用クリーニング機器で60%のシェアを持ち、製造・販売・エンジニアリング・メンテナンスを一貫で行うことで、洗濯工場の最適化に貢献しています。アイナックス稻本の機械が衛生的で安心な社会を支えています。



連続式洗濯機 NCPシリーズ

▼家庭の洗濯機の100倍超、一度にシーツ1,000枚を洗える洗濯機

洗濯機は長さが電車1両に匹敵するほど大きな装置です。増え続ける訪日外国人や2020年の東京オリンピックに向けてホテルの需要が増加する中、この洗濯機で「きれい」で「快適」な社会に貢献します。

■ 蒸気ライン	■ 水ライン
■ 温水ライン	■ 通信ライン
■ 圧縮空気ライン	■ 油ライン
■ 水素ライン	■ 排ガスライン



蒸気駆動エアコンプレッサ SD

▼蒸気駆動エアコンプレッサの製造集約化

本商品は株式会社神戸製鋼所と共同開発を行い、2009年よりダブルブランドにて販売していましたが、製造工程を三浦工業に集約し商品力を上げ、さらなる省エネルギーの実現に貢献します。

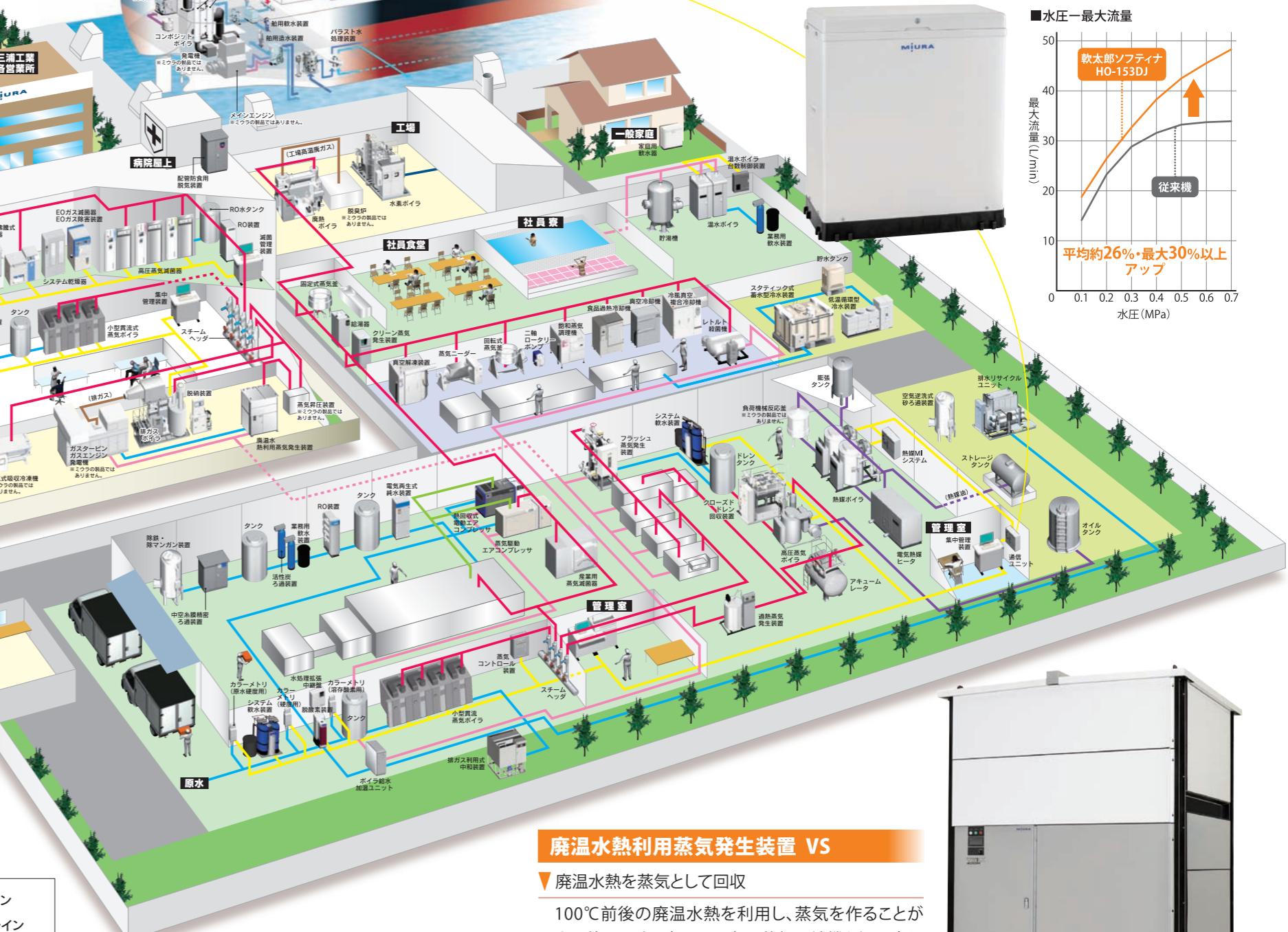
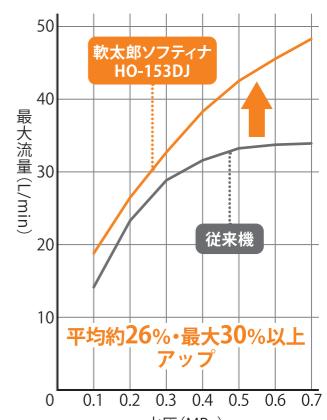
軟太郎ソフティナ HO-153

▼新モデル軟水器でお家まるごと軟水に

家庭用軟水器「軟太郎」の誕生から約25年。さらに省スペース化・通水流量UPを実現した「軟太郎ソフティナ」にモデルチェンジ。お肌にやさしく水まわり清潔な快適軟水生活をご提供します。



■水圧-最大流量



廃温水熱利用蒸気発生装置 VS

▼廃温水熱を蒸気として回収

100°C前後の廃温水熱を利用し、蒸気を作ることができるもの。ガスエンジン、蒸気圧縮機と組み合わせることで0.8MPa程度の蒸気を出し、発電+熱の総合効率を7%以上向上させることができます。



環境マネジメント

〈担当取締役コメント〉

世界は「パリ協定(COP21)」により脱炭素社会の実現に動き出し、一方で「持続可能な開発目標(SDGs)」の2030年ゴールを目指した具体的な活動が始まっています。

ミウラグループにおきましても、2017年度は、ポータルサイトを活用した「エネルギー使用状況の見える化」に取り組み、同時に「省エネ 草の根運動」をコンテストとして実施。優秀な活動をグループ内へ情報発信し、その

成果として、本年度も省エネ法による事業者評価のSクラスを維持することができました。

また、3R活動についても、環境部門でのペーパーレス化を実現し、そのノウハウを紹介することで、全社的な展開を始めています。

今後は、リサイクルエネルギーの導入や、工場省エネ診断による改善活動を推進し、さらなる環境負荷低減を実現してまいります。



EMS*トップマネジメント 取締役常務執行役員
福島 元司

*Environmental Management System(環境マネジメントシステム)の略称です。

ミウラグループ環境方針

ミウラグループ(以下、当社という)は、熱・水・環境の分野で、世界を舞台に、資源の有効利用と環境に優しい社会の創造のために、環境経営をより充実させ、持続可能な社会の実現に貢献する企業を目指します。

●行動指針

- 1 環境側面から環境に与える影響をとらえ、環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善を図ります。
- 2 環境目的、目標は、社員一人ひとりが身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動を優先的に取り上げます。
- 3 環境側面に適用される環境関連法規および当社が同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努め、自然との共生を図ります。

- 4 事業活動から環境に与える影響のうち、次の項目を重点的に取り組みます。
 - ①省エネ・省資源・環境の改善に寄与する商品開発に努めます。
 - ②エネルギーの有効利用を図ります。
 - ③資源のリユースおよびリサイクルを通じて廃棄物の抑制に努めます。
 - ④化学物質管理の向上に努めます。

推進体制

環境マネジメントに関する課題の審議を行うため、環境委員会を定期的に開催しています。

●推進体制図



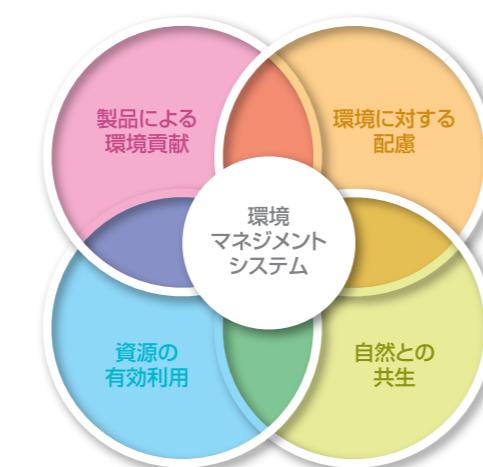
環境中期計画

環境中期計画は、環境方針に沿って4つの環境目的を掲げています。

年度ごとに自己評価を行い、継続的に改善しています。

●環境マネジメントシステムと4つの環境目的

製品による環境貢献	環境に配慮した製品を開発する。
環境に対する配慮	汚染の予防と化学物質管理の推進を図る。
自然との共生	環境保全活動を通じ自然との共生を図る。
資源の有効利用	エネルギーの有効利用と排出物のリユース、リサイクルの促進、資源の有効利用を図る。



■2012(平成24)年度～2017(平成29)年度の計画

環境目的	取組項目／実施内容	自己評価 2017年度	2017年度実績 参照ページ
環境に配慮した 製品開発	廃熱、温水・ドレン水の活用に貢献できる製品を開発する。 電力・燃料・水の使用の削減に貢献できる製品を開発する。 無薬注による水処理の促進に貢献できる製品を開発する。 河川・海洋汚染の抑制に貢献できる製品を開発する。	○ ○ ○ ○	P11～P12 特集3: 『製品による 環境貢献』
汚染の予防活動	ばい煙発生設備の定期的測定を実施し、大気の汚染防止に努める。 定期的な水質調査を実施し、水質の汚濁防止に努める。 定期的な騒音測定を実施し、騒音の発生防止に努める。 環境パトロールや製造機械の環境審査を実施し、緊急対応手順による監視を行う。	○ ○ ○ ○	P15 『汚染防止の 取り組み』
化学物質管理の 推進を図る	グリーン調達ガイドラインの草案を整備する。 化学物質情報共有化の仕組みづくりをする。 毒物及び劇物の運用監視のための内部監査を実施する。	— — ○	
共自然との 環境保全活動を通じ 自然との共生を図る	工場周辺の清掃活動を実施する。(年4回) 工場周辺の河川清掃活動を実施する。(年2回) 工場内、屋上の緑地を維持管理する。	○ ○ ○	P15 『自然との共生』 P27
有資源利用	ISO14001認証サイト内のエネルギー使用量(原油換算)の削減のための省エネ施策を立案する。(毎年度向こう5ヵ年分) エネルギー使用量(原油換算)の原単位 ^{※1} 前年度比で年1%削減する。 工場再編、部門移動に応じた計測メーターの設置と計測を行う。 エネルギー管理要領及び管理手順書に基づく運用管理を実施し、状況に合わせて見直しを行う。	○ ○ ○ ○	P16 『省エネルギーの 取り組み』 P27 『財務・非財務 データ』
工場内の排出物の リユースおよびリサイクル の促進を図る	工場内の排出物の総排出量 ^{※2} を原単位 ^{※1} の前年度比で年1%削減する。	○	P16 『省資源の取り組み』
資源の有効利用を図る	リユース率、リサイクル率の向上を図る。 紙使用量の削減(使用量=購入量として、2013年度を基準年とし、原単位比より削減する)	○ ○	P27 『財務・非財務 データ』

【自己評価の基準】 ○ … 計画通り実施できた。△ … 一部できていないところがある。× … 計画通り実施できなかった。 — … 現状維持管理

*1 原単位: 電力や燃料、その他のそれぞれの使用量(購入量)を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた積で除した値です。

*2 総排出量: ISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。

環境教育

基本的な考え方

持続可能な社会を実現するためには、一人ひとりの環境意識の向上、理解の促進が必要と考え環境教育を計画的に実施。一般教育のほか、職務によって必要な特定スキルの勉強会も開催しています。

環境教育

フロン類の環境負荷についての教育を「フロン排出抑制法」施行前より行っています。該当製品の管理・取り扱い者からの要望により、専門的な社内再教育も実施。一人ひとりが公害防止抑制に努めています。



フロン機器管理勉強会

EMS教育実施計画

一般	専門	教育名
○		EMS一般教育(新入社員)
○		EMS一般教育(一般)
○		EMS一般教育(製造会社新入社員)
○		毒物及び劇物取扱い教育
○		著しい環境影響を及ぼしうる設備の緊急訓練・シミュレーション
○		燃料講習・油漏れ緊急対応教育
○		法令管理DB教育
○		排水処理教育
○		公害防止教育

パレットの材料を南洋材(東南アジア産)より愛媛産ヒノキ(有り廉価材)に変更しました
愛媛は全国3位のヒノキ材の産地、地産地消で環境にもコストにも貢献

科学分析センター

福田
梨緒

開発資材部

汚染防止の取り組み

基本的な考え方

環境側面に適用される環境関連法規および当社が同意するその他の要求事項を遵守し、汚染の予防に努めます。とくに化学物質の管理体制を確立し、自然災害などの緊急事態でも周辺の環境を汚染しないように努めています。

幅広い角度から取り組む汚染防止対策

ミウラグループは、国および自治体の法規制を遵守し、環境汚染防止対策に取り組んでいます。定期的に実測を行い、報告・保管を遵守しています。

排水汚染防止

工場から排出される排水がきれいに処理され自然に還るよう、独自の監視装置で24時間徹底管理しています。常時、適正な排水処理と水質保全に取り組んでいます。

廃棄物対策

本社・北条地区から排出される廃棄物の処分について、定期的に廃棄物処理業者を視察し法令遵守を確認しています。さらに電子マニフェストの推奨も行っています。

工場パトロール

社内で構成された「公害防止分科会」のメンバーが生産工場内のパトロールを実施しています。経年劣化の設備を33件発見し、環境汚染・公害のリスクを回避することができました。

安全・環境審査

生産工場へ新設備が導入され本稼動する前に、環境管理課・安全管理課により環境保全・安全性に問題がないかどうかの審査を行います。

騒音防止

近隣地域への騒音法規制の遵守を継続するために、定期的に騒音値を計測しています。

エコピープルのつぶやき

自然との共生

基本的な考え方

地球環境との調和を目指した環境活動として自然との共生に努めています。周辺地域の環境保全や、もっと広い視野で「従業員一人ひとりが身近に参加でき、その総和が環境負荷低減につながる活動」に取り組んでいます。

公園緑地を整備

ミウラグループで昨年整備した緑地公園内に、バレーボールとフットサル用のコートを設置しました。ミウラグループ従業員の手によりコート周りの遊歩道の整備、四季折々が感じられる樹木と芝の植栽を行い、地域の緑化と環境負荷の低減に努めました。新しく完成したコートは従業員および周辺地域の方々に利用していただいており、近隣の方々との憩いの場となっています。



新工場緑地帯、芝の育成

北条新工場の拡張にともない、工場外周部分の緑地を、ミウラグループ従業員が企画し、芝生植栽面積1,500m²分の土づくりから始めました。たい肥を使用した土壌改良から表面の整地、芝の播種、散水、肥料散布、除草をこまめに行なながら野芝の育成に取り組んでいます。芝生を小さな種から植え付け栽培することにより、管理する側も愛着が湧き、小さな芽から育っていく芝生の姿は従業員の心の癒しにも活かされています。地域の緑化と環境負荷の低減にも役立っています。



芝生植え付けの様子

完成したフットサルコートとトイレ

エコピープルのつぶやき

冬はカーポンニュートラルを考慮し薪ストーブを活用。
湯を沸して湯たんぽを作り寝心地快適、翌朝湯たんぽのお湯で洗顔、省エネ推進中です。

アクリア事業管理部
華谷勝

基本的な考え方

省エネルギーの取り組み

基本的な考え方

限りあるエネルギーを、いかに無駄なく有効に利用していくかということについて、「ミウラグループの従業員一人ひとりが自ら考え、できることから行動する」を基本とし、より良い省エネ活動を展開しています。

ミウラグループ省エネアイデア「いいね」コンテスト実施

ミウラグループでは、「省エネ 草の根運動」の1つとして、全従業員が省エネ法の目標達成に一丸となって取り組めるよう、モチベーションの向上を図り、省エネコンテストを実施しています。2016年度に引き続きの実施となりましたが、今年度は従業員間でそのアイデアを投稿し、さらに共感できる仕組みを追加しました。今年の傾向は、製品の製造に携わる人だけでなく、事務・スタッフ職からも積極的な省エネアイデアの投稿があり、多くの共感を得ることができました。



トップマネジメント賞
坂出メンテ：松端佑芽

みなさん「いいね」ありがとうございます! 事務員3人でホコリにまみれて掃除した甲斐がありました!



環境委員長賞 北関東・信越業務推進課：藤崎陽子
エネルギー使用量をグラフ化し、コメントや季節ごとの絵柄で一年間使用できるようにポスターを作製しました。今後も省エネの活動に取り組んでいきたいと思います。



作業エリアごとの使用電力量グラフ

省資源の取り組み

基本的な考え方

「混ぜればゴミ、分ければ資源」の考え方から、廃棄物を有効な資源と捉え、有効活用を図ることを目的にしっかりと分別を行い、3R(リデュース・リユース・リサイクル)を展開しています。

ペーパーレス化の推進

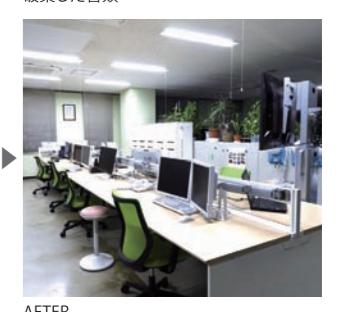
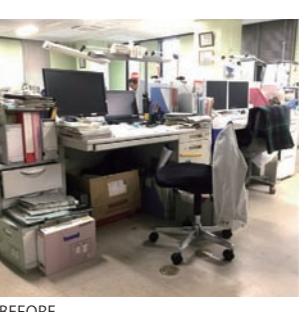
環境保護・省資源の一環として、社内で使用する紙類を削減するペーパーレス化を推進しています。環境管理部が、パイロットケースとして実践し、多くのメリットを生み出しました。その構築したノウハウを社内へ展開しつつあります。文書のデータ化・管理・保管、社内サーバー、スキャナーの活用など、関係部署と連携を取りながら進めています。



破棄した書類



廃木材を解体し、パレットにリユース



木枠・パレットの有効利用

木枠・パレットなどの廃木材を活用し、木材の有効利用を図っています。部品購入の際に使用されている梱包用の木枠やパレットのうち、そのままで利用できるものについては、部品の発送時などにリユースしています。さらに、上記以外の木材については、グループ内の担当部門が解体・制作し、発送用部品の下台として活用しています。

エコピープルのつぶやき

エコピープルのつぶやき

コタツの敷布団の下にアルミマット敷いています。床からの冷気をシャットアウトしてくれるので設定温度を下げても暖かいです。

プロジェクト管理室

鳥谷 紘美

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

ミウラグループは、持続的な企業価値向上の実現に向けて、ステークホルダーと良好な関係を築き、経営の透明性と効率性を追求する管理体制、自立的なCSR活動体制を整えることが重要と考えています。

現状のコーポレート・ガバナンス体制の概要

取締役、取締役会、執行役員会

取締役会は、取締役16名（うち監査等委員5名）で構成され、経営の意思決定を行うと共に、各取締役の業務執行の適法性・妥当性について監督を行っており、執行役員会は、業務執行に関する事項を協議・決定し、迅速な業務執行に努めています。

内部監査

内部監査は、代表取締役社長執行役員CEO直轄の内部監査室（スタッフ4名）を設置し、子会社を含めた各部門の資産、会計、業務等の全般に関して経営方針、関係法令、社内規程等に準拠して適正に行われているか定期的に内部監査を実施するとともに、必要に応じて改善・提言等を行っています。監査結果は、定期的に代表取締役、業務執行取締役および監査等委員会に報告します。

会計監査

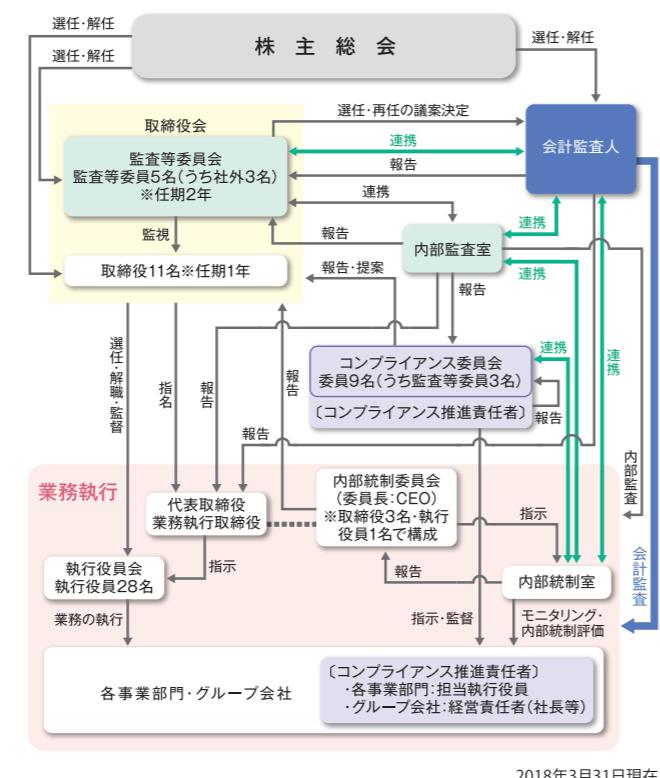
会計監査は、会社法および金融商品取引法に基づく会計監査人に「有限責任監査法人トーマツ」を選任し、適正な監査を受けています。また、連結子会社については、一部の海外現地法人において当社の会計監査人以外の会計事務所の監査またはレビューを受けるなど、実効性のある会計監査に努めています。

なお、同監査法人および当社監査に従事する業務執行社員と会社の間には、特別に利害関係はありません。

監査等委員、監査等委員会

監査等委員会は、監査等委員5名〔うち社外取締役3名（委員長含む）〕で構成し、策定した監査方針等に基づき、取締役会や重要な会議への出席、業務状況等の調査を通じ、業務執行者に対する監査・監督を行っています。会計監査人および内部監査室とは、監査結果報告を受けて積極的に意見・情報交換を行うと共に、それぞれの監査へ立ち会うなど緊密に連携しており、また、内部統制部門や関連部門から、コンプライアンス・リスク管理活動等についての報告を適宜受けています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



内部統制システム等に関する事項

内部統制システムに関する基本的な考え方および整備状況

経営戦略や事業目的を組織として適正かつ効率的に達成するため、業務の効率化を高め、情報の信頼性を確保するとともに法令遵守の体制を構築していくことが内部統制システムの基本であると考えており、法令を遵守することはもちろん、企業倫理に照らして誠実かつ公正に業務を遂行することが重要であると認識しています。この方針に基づき、取締役および執行役員等で構成される「コンプライアンス委員会」を設置し、「ミウラグループ企業行動規範」の周知徹底に努めています。また、従業員に対して社内のほか社外弁護士を相談窓口とする内部通報制度を導入し、社内不祥事情報の早期収集を図っています。

反社会的勢力に向けた基本的な考え方および整備状況

「ミウラグループ企業行動規範」のなかで、反社会的な活動を行う団体や勢力とは一切の関係を持たないことを明記しています。また、「反社会的勢力対応要領」を制定し、この要領に基づき、所轄の警察署や顧問弁護士の指導を仰ぎながら、企業として毅然とした態度で臨んでいます。「ミウラグループ企業行動規範」の詳細は本報告書の5ページに記載しています。

コンプライアンス、リスクマネジメント

基本的な考え方

コンプライアンスとリスクマネジメントはコーポレート・ガバナンスを支える基盤であり、切り離せない両輪であるという認識のもと、全従業員に「ミウラグループ企業行動規範」を浸透し、企業を取り巻くあらゆるリスクに対して公正で適正な対応を進めています。

コンプライアンス委員会の設置

ミウラグループのコンプライアンス体制の確立、維持、向上を目的としてコンプライアンス委員会を設置し、当グループ内各社の取締役会等に対し諮問等を行っています。

情報の保護・情報セキュリティの取り組み

お客様から信頼される企業であり続けるために、お客様からお預かりした情報資産（個人情報や設備情報等）、ならびに保有する情報資産（営業上の秘密やノウハウ、インサイダー情報、技術情報等）は、あらゆる脅威から保護し、適正な管理・運用を確保することが求められます。ミウラグループでは、すべての役員と従業員が「情報管理規程」で定める情報セキュリティ対策を正しく理解し遵守し、日々の業務の中で情報資産の保護を最大限に配慮しながら企業活動を展開しています。

セキュリティ対策の継続的な強化

「情報セキュリティ対策」として情報管理規程を定め、セキュリティ管理体制を明確にし、定期的な見直しと対策強化を継続的に行ってています。具体的には、専門機関によるホームページのセキュリティ診断などを行っています。

従業員教育を毎年実施

情報機器を取り扱う全従業員に対して継続的に情報セキュリティに関する教育・注意喚起を実施し、その重要性、情報の適切な取り扱いや管理について周知徹底を図っています。また教育資料についても定期的に見直しを実施しています。

個人情報保護

お客様からの大切な個人情報に関しては、三浦工業のウェブサイトに記載した「個人情報保護ポリシー」のもと、取り扱いの規程を整備しています。また、保護状況については内部監査等による継続的な見直しを行っています。

安全保障輸出管理への取り組み

我が国では、国際的な平和および安全の維持の観点から、軍事転用可能な貨物や技術が、国際社会の安全を脅かすような国家やテロリスト集団など懸念活動を行うおそれがある者に渡ることを防止するために「外国為替及び外国貿易法」が定められています。

三浦工業は、「国際的な安全と平和を阻害するおそれの

ある取引に関与しない」を基本方針として「安全保障輸出管理規程」を定め、輸出許可の要否を判断するための貨物・技術の該非判定と取引審査、定期監査、教育訓練、グループ会社への指導などを行い、法令を遵守した適正な輸出管理に努めています。

知的財産の保護

第三者の知的財産権を尊重し、侵害しないように努めると共に、自社の知的財産権の確保を積極的に行い、有効に活用する活動に取り組んでいます。

①知的財産権の尊重

第三者の知的財産権を侵害する事がないよう、先行技術等の調査を十分に行い、その結果を反映させた新技術・新製品の研究および開発を行っています。

②知的財産活動

研究・開発の初期段階から事業部門と知的財産室とが連携し、発明の抽出や特許等の権利化を戦略的に行い、技術の保護、および知的財産の強化を行っています。

③従業員教育

知的財産を尊重し、保護・活用する教育を、集合教育やe-Learning等により継続的に行ってています。

事業継続計画(BCP)への対応

従来より「地震対策をはじめとする危機管理要領」「海外緊急事態発生時対応要領」「新型インフルエンザ対策要領」などを策定し、事業継続を脅かすさまざまなリスクへの対策を講じてきました。2012年度からは、BCP※基本方針に基づき、主に東南海・南海地震を想定して、緊急時の対策を進めています。

関連する情報を、「お客様の役に立つBCP対策」（20ページ）に掲載しています。

※BCP:Business Continuity Planning（事業継続計画）の略で、災害や事故など不測の事態を想定して、事業継続の視点から対応策をまとめた計画のことです。

緊急時の対応訓練

差し迫る南海トラフ地震の備えとして、災害対応訓練を実施しました。対策本部や自衛消防本部隊などの役割を持つた従業員が参加し、初期対応から避難所開設までの状況をシミュレーションしながら実施しました。けが人の発生やトラブルの発生などにも隨時対応しながら、一連の意思決定を繰り返し行いました。

このような訓練を実施し、改善につなげることで防災対応力を向上させ、迅速に事業継続が進められるよう努めています。



2017年度の対応訓練の様子

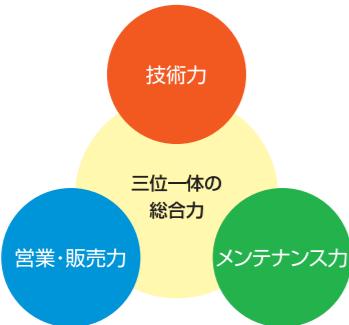
お客様への責任と行動

基本的な考え方

我々は、「ミウラグループ企業行動規範」に則って行動し、お客様に役立つ技術を磨き、製品やサービスにおけるすべての「品質」を高めるべく、チャレンジし続けます。

お客様の問題解決(三位一体の総合力)

ミウラグループは、技術・営業・メンテナンスの各部門が緊密に連携して一体的に動くワンストップサービスを何よりも大切にしています。この三位一体の連携でお客様に満足をお届けしています。



■品質マネジメント宣言

基本理念 わが社に対するお客様の信頼は、製品やサービスの品質の上に成り立っている。ここにお客様最優先・安全最優先を宣言し、全社員が危機感を持ち、テクノサービス力を強化しそれぞれの部門でその役割を積極的に果たす。

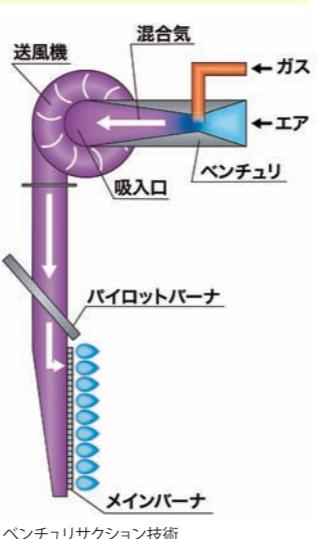
品質方針 コーポレートステートメント「熱・水・環境のベストパートナー」を実現するにあたり、次の行動をすべての社員がそれぞれに全うしなければならない。

- ①法令・規制要求事項を遵守し、安全性を第一に考えたものづくりを行う。
- ②社会的に有用で高品質の製品やサービスを創出し、お客様の満足を得る。
- ③最高のテクノサービスを追求し、お客様から信頼される企業を目指す。
- ④環境への配慮を重視した製品・サービスを開発し、提供し社会に貢献する。
- ⑤全体最適の視点・グローバルな視点で考え、継続的に品質の向上を図る。

ミウラグループの第三者認証や製品認証などの取得状況は、ウェブサイトでご覧いただけます。 <http://www.miuraz.co.jp/>

技術力

相当蒸発量1,200kg/hのボイラには、中圧ガス供給が必要でしたが、「ベンチュリサクション技術」を採用することで、低圧ガスへの対応も可能となりました。これにより、低圧ガスをご使用にならっているお客様にも幅広くご採用いただくことができます。低NOx性能および省スペース性といった従来機の優れた特長については、本製品においても同仕様を継続しています。(製品名:SQ-1200ZL)



営業・販売力

近年、「エネルギー使用量の見える化」に対する社会的関心の高まりから、工場診断(省エネルギー・省CO₂の提案)の実績も増加し、その診断メニューも多彩な内容になっています。



自社開発の負荷分析装置(MD9000型)

メンテナンス力

機器の正常運転に不可欠なメンテナンスを重要な顧客サービスとしてとらえ、お客様の手間とコストを軽減し、設備性能の維持や故障を未然に防止するため、近年注目を集めている通信機能(IoT)を活用しています。機器操作のサポートや、お客様によって異なる設備使用状況を把握して運用方法を適正化し、省エネ追加機器を導入するなどの付加価値提案を実践しています。また、お客様情報を現場サービスエンジニアのタブレット端末地図上に表示し、過去の出向・提案履歴が確認できる「Miura GIS(地理情報システム)」の運用を開始し、モバイルプリンタも導入しています。これにより、出先での行動効率の向上、業務処理の合理化ができ、対応時間が短縮したことでお客様満足度も向上しました。さらに残業時間の削減にもつながり、従業員のワーク・ライフ・バランスの推進も両立できる成果をあげています。

お客様の役に立つBCP対策

〈BCP基本方針〉

ミウラグループの事業継続計画(BCP)では、従業員とその家族の安全の確保などに関する「基本版」、製品の生産および供給の継続などに関する「生産対策班」での活動を前提に、災害発生時に必要となる情報の事前準備を基軸として、被災地には拠点対策本部のバックアップ、無被害の地域には通常業務継続のためのリスク低減および復旧支援の対応策を準備・実施する「メンテ営業活動継続支援班」による実働に取り組んでいます。

ミウラでは、大規模災害が発生した深刻な状況においても、取引先との関係を継続し、メンテナンス、営業活動を途絶えさせない“お客様目線”的BCP運用を目指しています。



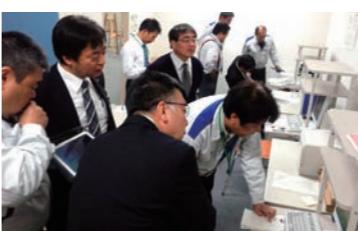
社内研修の様子

災害支援ツール活用方法に関する研修を実施

2014年から独自に開発した「Miura GIS(地理情報システム)」による災害支援ツールを運用しており、熊本地震発生後の活動に活かすことができました。そこから得た経験を活かしていくためには、時間や場所を特定することが困難な災害において、さらに迅速かつ正確な情報収集、および情報共有を行い、活動していく必要があります。そのため、改めて、2017年度は全国の営業・サービスエンジニアを対象に実際に使用する災害支援ツールの利用方法、運用手順などを体験する訓練や、情報配信の重要性を説明する研修を行い、再認識しています。2017年7月に発生した九州北部豪雨災害においても、災害支援ツールを活用した愛媛本社と現場との間で情報共有を行い、的確な対応を行うことができました。

ものづくり日本大賞「四国経済産業局長賞」を受賞

技術力・営業販売力・メンテナンス力の三位一体の総合力で実現した「ボイラのオンラインメンテナンス(IoT)を活用したトータルソリューションモデル」を実用化した点が高く評価され、2018年2月、第7回「ものづくり日本大賞」※「ものづくり+(プラス)企業」部門で、「四国経済産業局長賞」を受賞しました。



第2ZISセンターでの研修



緊急時の組織体制(第2ZISオンラインセンター)

被災により愛媛の本社ZISオンラインセンターが機能不全に陥った場合に備え、栃木支店にオンラインメンテナンスのバックアップシステムを設置しています。また、有事の際の備え、実務担当者向けに、年3回の実地訓練研修を実施しています。



表彰式の様子

※「ものづくり日本大賞」は、製造・生産現場の中核を担っている中堅人材や伝統的文化的な「技」を支えてきた熟練人材、今後を担う若年人材など、「ものづくり」に携わっている各世代の人材のうち、とくに優秀と認められる人材を顕彰するものです。本賞は、経済産業省などが連携し、2005年より隔年開催されており、今回で7回目を迎えます。

さらなる改善と今後の取り組み

熊本地震、九州北部豪雨災害での対応では初動対応など、まだ未成熟な点も見受けられましたのでさらなる運用改善に取り組んでいます。また、被災地を心配される販売店様からの問合せに対しては災害支援ツールを確認して状況報告を行うなど、利便性も広がっています。

今後も定期的な訓練の実施、運用の見直しなどを行い、より迅速に対応できるシステムを目指します。



株主・投資家への責任と行動

基本的な考え方

企業価値の最大化を目指して効率性の高い経営に努めるとともに、株主や投資家の皆さまが必要とされる企業情報を適正かつ適時に開示し、対話を通じて経営の透明性を高め、開かれた企業を目指します。

株主還元の基本方針

ミウラグループは、利益配分を重要な経営課題として認識し、経営基盤の強化を図りながら、連結配当性向30%を目処に、安定的な配当の継続を基本としています。

中期経営計画達成に向け、人財に先行投資し、グローバル化や新規事業の開発研究に力を注ぐとともに、株主の皆さまへの長期安定的な収益の確保と積極的な利益還元に努めています。

また、株主優待においては、魅力ある地元愛媛の県産品（砥部焼＆今治タオル）をご優待品の1つとし、ご好評をいただいているいます。



平成29年度の株主優待の実績例

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

ミウラグループでは、機関投資家、アナリスト向けの決算説明会や株主総会後の成長戦略説明会に経営トップが自ら登壇し、決算内容の説明、経営方針、質疑応答などを行うことで、主体的にコミュニケーションを図っています。また、決算説明会において、経営執行者として責任ある立場である取締役、執行役員が登壇し、自事業部の取り組みや戦略、トピックスなどについてお話させていただくことで、組織的なIRを展開しています。

最近では、機関投資家が本社（愛媛県松山市）へ来社し、工場や施設を見学することで、当社への理解を深めています。さらなる相互理解促進のために、国内機関投資家訪問を決算説明会の時期に合わせて実施、海外投資家向けの証券会社主催のカンファレンスにも参加し、直接対話の場を広げています。

議決権の行使においては、株主の皆さまがスムーズに議決権行使できるよう、インターネットによる議決権行使、招集通知の発送前WEB開示、積極的に環境整備に取り組んでいます。

国内外の株主・投資家の皆さまとの対話を通じていただいた貴重なご意見や情報を、今後の経営やIR活動に活かし、企業価値の最大化に努めます。

適時・適切な情報開示

ミウラグループでは、投資判断に影響を与える会社情報について、法令遵守のもと適時かつ公平な情報の開示を継続的に行ってています。それ以外の当社をご理解いただくための情報についても、重要度や緊急性に応じて、ニュースリリース等により速やかに開示しています。

また、WEBサイト上で「連結業績のハイライト」「決算説明会資料」「株主優待のお知らせ」などを分かりやすく公開し、当社の戦略や取り組みについてご理解いただけるよう努めると共に、必要に応じて英文版も掲載し、幅広く株主さまに当社をご理解いただける体制を整えています。

さらに、個人株主・投資家の皆さまへ中間決算期と本決算期に「株主通信」を郵送し、業績報告、今後の戦略についての説明や、当社の事業についてご理解を深めていただけるよう「教えて！ミウラマン」という漫画を掲載し、お子様にも楽しんでいただける冊子にしています。

今後も経営の透明性を高め、さらなるご理解と信頼をいただけるよう、積極的な情報開示を継続すると共に、正確に分かりやすくお伝えできるよう検討してまいります。



第60期 中間株主通信



漫画「教えて！ミウラマン」

IRカレンダー

ミウラグループの2017年度の実績を紹介します。

2017年	2月 6日 第59期第3四半期決算発表
	5月15日 第59期決算発表
	5月24日 第59期機関投資家向け決算説明会(東京)
	6月29日 第59回定時株主総会
	7月31日 野村證券 松山支店 主催 個人投資家向け会社説明会
	8月 7日 第60期第1四半期決算発表
	9月 2日 さわかみ投信 主催「さわかみファンド」 運用報告会2017(大阪)
	11月 6日 第60期第2四半期決算発表
	11月21日 第60期第2四半期 機関投資家向け決算説明会(東京)
2018年	2月 5日 第60期第3四半期決算発表

取引先への責任と行動

基本的な考え方

購買部門は企業の社会的責任を果たすために、取引先との相互理解・法令、社会規範遵守を積極的に推進しています。さらに取引先から供給された優れた資材をより良い製品づくりに活かし、お客様へ提供していきます。

調達の基本方針

オープン

日本国内だけでなく、広く海外の企業に対しても門戸を開き、優れた製品を有し、良好なサービスを得られる企業との取引を求めていきます。また常に新しい企業との購買取引を心掛けています。

公正

取引先の選定は、製品の品質・性能・価格・納期の確実性、アフターサービス体制、および経営状態などを総合的に判断し公正に選定します。

相互信頼

公正な取引を通じて、取引先の皆様との相互理解と信頼を深め、相互利益のために信頼関係を築き上げていくよう努めています。

法令の遵守

弊社との購買取引にあたって、弊社と取引先の皆様の双方が、国際社会の関連法規ならびにその精神を遵守すべきであると考えます。

社会への貢献

弊社と取引先の皆様が購買取引を通じて、ともに社会に貢献する良きパートナーとなるべきであると考えます。

「調達の基本方針」の詳細はウェブサイトでご覧いただけます。
<http://www.miuraz.co.jp/>

購買手続き

新規取引を希望の取引先に対しても、受け入れ態勢を整え、国内外や地域の差別なく公正に評価し選定を行います。

● 購買手続きの流れ



PC交流会(加工プロセス改善活動)

主要協力会社・設計・調達におけるPC交流会活動において、加工改善による加工時間の削減を電力消費量の削減に換算し、協力会社の部品製作時におけるCO₂排出量の抑制に取り組んでいます。



活動の様子(三浦マニファクチャリングにて)

Web購買システム

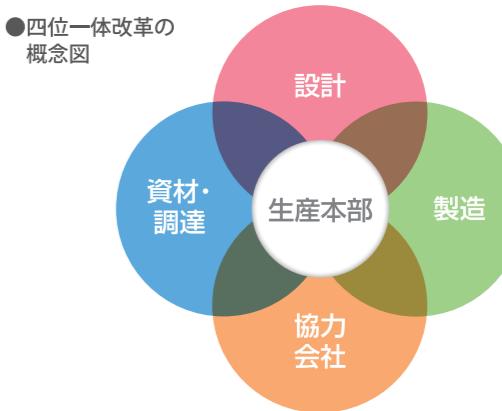
2016年度から運用を開始したミウラWeb購買システム(電子データ交換による商取引)も順調に稼動し、取引先とのより円滑な受発注が実現できています。また、新しく取引を開始させていただく場合も、相互のメリットを享受していたとき、取引開始時点からの運用に協力をいただいています。

注文伝票が郵送から電子データ交換に変更されることで、正確かつスピーディな発注情報の伝達が実現され、データの有効活用も推進され、相互の働き方改革にも少なからず貢献できているのではないかと自負していますが、まだまだ改善すべき点も多々あると考えています。今後は、さらなる進化を目指して継続的な改善を行います。

四位一体改革の推進

ミウラグループは世界連携で四位一体(設計・グループ製造会社・資材調達・協力会社)の生産改革を展開し、高品質・低コスト・短納期を実現する生産体制の構築に取り組んでいます。

● 四位一体改革の概念図



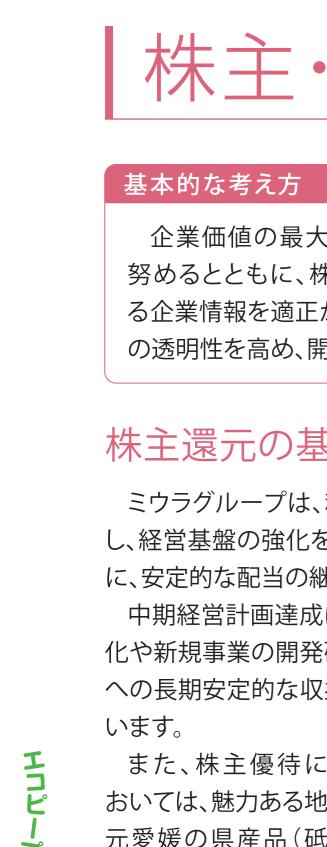
イコピーブルの
つぶやき

我が家のボイラーもエコキュートに変え、
電気代・灯油代の削減で家計簿に貢献です。

水・洗剤の使用量を少なくていています。
会社では、裏紙使用を心がけています。

三浦マニファクチャリング 生産管理課
戎田裕美

1



山内豊
三浦工機生産部

電気代・灯油代の削減で家計簿に貢献です。

地域社会への責任と行動

基本的な考え方

ミウラグループでは芸術や文化・学校行事の支援、環境の保全・地域活動への協力、その他のボランティア活動などの分野において、地域との共存・共栄を図りながら、地域に役立つ社会貢献に取り組んでいます。

国内のCSR活動

松山まつり

ミウラグループは毎年8月に行われる松山まつり(企業連の部)へミウラグループ連として、130名を超える従業員が踊り手、演奏隊、スタッフ、事務局などの役割を担い参加しています。本番に向けて本格的な練習を5月頃からスタートします。従業員が考えた衣装、振り付け、音楽で「チーム・ミウラ」の力を結集した野球拳踊りが松山まつりを盛り上げました。結果は準優勝を獲得。今後も地域社会を盛り上げるイベントへ積極的に参加し貢献していきます。



【松山まつり】
①ミウラグループ連として参加した従業員
②野球拳踊りの様子



【愛顔をつなぐえひめ国体・えひめ大会】
軟水による手洗い体験ブースにみきやんが訪問



愛顔をつなぐえひめ国体・えひめ大会

2017年9月に行われた、第72回国民体育大会「愛顔をつなぐえひめ国体・えひめ大会」では軟水による手洗い体験ブースを出展したほか、多くの従業員が選手・役員・ボランティアスタッフとして参加しました。

愛媛マラソン

2018年2月に行われた第56回愛媛マラソンでは、北条工場前(コース27km付近)でお接待所を設けています。2018年も10,000名を超えるランナーが参加され、社内のボランティアスタッフ約30名によってアンパン、バナナ、スポーツドリンク、水、などの配布を行いました。また、スタート・ゴール地点である堀之内では、道後温泉のお湯を約10トン用意し、当社の蒸気ボイラを利用して適温に加温した足湯ブースを開設。ランナーの疲れた心と身体を癒すおもてなしを提供しました。



【愛媛マラソン】
①足湯で活躍したミウラボイラ
②北条工場前のお接待所
③従業員がボランティアでおもてなし

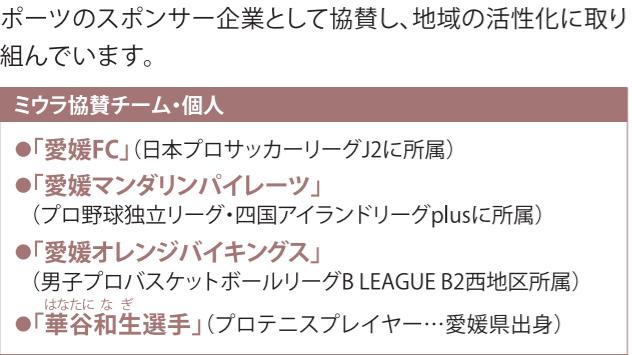


地元プロスポーツを支援

地域に役立つ社会貢献活動の一環として愛媛のプロスポーツのスポンサー企業として協賛し、地域の活性化に取り組んでいます。

ミウラ協賛チーム・個人

- 「愛媛FC」(日本プロサッカーリーグJ2に所属)
- 「愛媛マンダリンパイレーツ」
(プロ野球独立リーグ・四国アイランドリーグplusに所属)
- 「愛媛オレンジバイキングス」
(男子プロバスケットボールリーグB LEAGUE B2西地区所属)
はなになぎ
- 「華谷和生選手」(プロテニスプレイヤー…愛媛県出身)



「愛リバー・サポーター」として 地域の河川清掃ボランティアを実施

2017年6月3日、ミウラグループ本社(愛媛県松山市堀江町)の近くを流れる明神川(二級河川)の清掃活動を実施しました。愛媛県が参加を呼びかけている「愛リバー・サポーター制度」の取り組みの1つで、ミウラグループでは、2012年から本制度に登録し、本社と同市内にある北条工場近くを流れる河川の清掃活動を継続的に行ってています。

*「愛リバー・サポーター制度」とは行政と地域住民の合意・協働により、美しい河川環境を創り出していくこうとする取り組み。住民団体・河川愛護団体・NPO・企業等から自発的な河川ボランティアを募集し、河川の愛護サポーターとなるもの。



清掃活動の様子

「キッズジョブまつやま2017」へ参加

2017年12月、愛媛県松山市内において松山市小中学校PTA連合会および松山市文化・スポーツ振興財団が主催する職業体験イベントにミウラグループの従業員26名がボランティアスタッフとして参加しました。イベントには小5~中3までの児童・生徒を対象とした職業体験学習の場となっており、ボイラに必要不可欠な水を送るための「配管組み立て」や液体の性質を調べる「水分析」の作業を体験していただきました。今後も地域・社会への貢献活動へ積極的に取り組んでいきます。



配管組み立て作業の様子

愛媛大学大学院農学研究科の寄附講座

愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」に寄附講座を開設し、環境に関する分析・対策技術の研究開発と教育を通して、地球環境の保全や循環型社会の構築、人材育成に貢献することを目指しています。

具体的には食品や水、土壤中のPCBや残留農薬等の化学物質、ウイルスの新たな分析技術、室内環境のモニタリング技術などの研究開発に産官学連携で取り組んでいます。



愛媛大学環境産業研究施設「三浦記念館」

溶接技術競技会で高校生へ溶接技術を指導

2017年8月5日愛媛県新居浜市で「全国選抜高校生溶接技術競技会in新居浜-溶接甲子園-」が開催されました。会場には、四国地区溶接技術検定委員会から「溶接マイスター四国」の認定を受けた熟練溶接士による指導コーナーが設けられ、ミウラの溶接マイスター4名も、全国から来場した高校生や指導教員に実演と指導を行いました。

ミウラグループでは、地域の工業高校に溶接の出張指導も行っており、次代を担う技能者の育成に積極的に取り組んでいます。



溶接甲子園で指導するミウラの溶接マイスター

ミウラート・ヴィレッジ(三浦美術館)

ミウラート・ヴィレッジは、従業員や地域の方々に、よい美術品を鑑賞して楽しんでいただこうと、創業者・故三浦保の強い意思で建設されました。2017年度は、7件の企画展を開催。恒例のお花見会では2日間で約2,000名のご来館をいただきました。9月には、三浦保像と夢のモニュメントを建立しました。ここに創業者の遺志を再認識して、今後もさらに地域の方々に喜んでいただける企画展を開催していきます。



丸山晩霞記念館学芸員によるギャラリートークの様子



左:モニュメント「夢」 右:創業者 三浦保像



食品トレーや牛乳パックなどはなるべくゴミにならないよう細かく分類することを心掛け
スーパーなどにあるリサイクルBOXを活用しています。

中村文恵

札幌支店アグノ食機札幌営業課



買い物に行く時は、エコバックを持参してレジ袋を使わないように
心がけています。家を出る前には、使わない家電のコンセントを抜き

待機電力の削減に努めています。

河部理沙
三浦アクアテック

地域社会への責任と行動

海外のCSR活動

●ミウラメキシコ

メキシコ初の二国間クレジット制度において ミウラのボイラが活躍

優れた低炭素技術・製品の普及により温室効果ガス排出の削減に日本が貢献するために、二国間クレジット制度(以下JCM)があります。JCM利用によるメキシコ初の取り組みに、ミウラのボイラが活用されました。メキシコで生産されている蒸留酒として世界的に有名な「テキーラ」ですが、メキシコ中部のハリスコ州テキーラ町周辺で厳格な規定に基づいて生産される蒸留酒のみに「テキーラ」の称号が与えられます。このテキーラ町で1873年からテキーラ製造を続けているTequila Sauza S. de R.L. de C.V.は長年重油によりボイラ設備を稼動していました。同社はサントリーグループの一員でもあることから省エネルギー化や温室効果ガス削減に取り組むため、2017年度JCM事業として天然ガスを燃料とするボイラへ更新されました。総量27t/hの蒸気ボイラ設備はミウラアメリカで製造されたEX-300SGO×6台のMIシステムで構成され、年間3,500t-CO₂の削減が見込まれる他、最新のテクノロジーで安全と省エネルギー化を実現する設備として稼動しています。



納入ボイラ：EX-300SGO×6台



納入先：Tequila Sauza S. de R.L. de C.V.

●ミウラ中国

環境美化活動への取り組み

例年、ミウラ中国では公園の美化活動を実施しています。今年も11月にはミウラ中国の蘇州工場から約40kmの場所にあり、広大な敷地の中に山、湖、樹木、花などの自然があふれ地元住民たちの憩いの場となっている「白馬澗」公園において従業員とその家族97名が参加して園内のゴミ拾いをしました。とくに子どもたちは“われ先に”と拾った量を競い合い、汗をかくほど熱心に取り組み、みんな笑顔に溢れていました。この活動を通じて従業員一人ひとりの愛と温かい心が伝わり、青空と純真な世界で生活できることを心から希望しています。



白馬澗公園の清掃活動に参加した従業員とその家族

●ミウラアメリカ

学生の支援と寄付活動

ミウラアメリカではノースサイド小学校のロボットキャンプのスポンサーをしており、子どもたちを工場へ招いて溶接ロボットの見学会を実施しました。また郡のキャリアアカデミーの溶接プログラムともスポンサー・シップを結んでおり、インターンの受け入れや後の雇用にもつながっています。

毎年サンクスギビングデーにはfood drives、クリスマスにはToy and Coats drivesといったチャリティー活動に参加し、会社での取り組みとして各従業員が購入した品物や使用しなくなった衣服を提供しています。

また、省エネの取り組みとして工場照明のLED化を進めています。



工場見学の様子

従業員への責任と行動

基本的な考え方

ミウラグループは「働きがいのある、働きやすい職場づくり」をモットーに、従業員の人格・個性を尊重し、安全な職場環境と良質な労働条件を提供するとともに、人財の育成と活用を推進しています。

健康経営

従業員の心と体の健康保持・増進のために、三浦グループ健康保険組合との共同事業として、引き続き「コラボヘルスプロジェクト」に取り組んでいます。2015年より毎年実施している健保組合ホームページを利用した「健康ウォークラリー」では、62チーム(238名)が参加し、チーム目標の達成率は過去最高(74.8%)となりました。また、健康診断受診後の生活習慣改善や家庭での健康管理に役立ててもらえるよう、全従業員に、健康増進情報を掲載した『快体心書』冊子を配布しました。

50名以上の事業所を対象に行っているストレスチェックでは、セルフケアの推進継続と共に、集団分析の内容を見直し、より良い職場環境づくりに活用しています。

ワーク・ライフ・バランス

三浦工業では、労働時間の効率的な利用・生産性の向上・残業時間の削減を目的として、フレックスタイム制を導入しました。2016年10月に技術、スタッフ部門からスタートし、徐々に適用部門を拡張してきました。積極的に制度を利用することで時間外労働の削減に効果が現れたことや、ワーク・ライフ・バランスを実現する働き方ができることを踏まえ、2018年度からは全正社員へ一斉導入しています。合わせて時間単位年休制度も導入する等、今後も多様で柔軟な働き方を推進してきます。

Miura Global Talent School

グローバル化にともない、海外でミウラグループの理念共有や会社経営に携わる人財が今以上に必要になります。海外で活躍できる人財を計画的に育成するため、2017年度よりMiura Global Talent Schoolを開講いたしました。TOEIC IPテスト、愛媛大学留学生とのグループディスカッション、海外トレーニー、会長・社長の海外同行出張など、語学力だけではなく、国際感覚を磨く活動も行っています。



グループディスカッションの様子

労働安全衛生

ミウラグループでは、事業活動のあらゆる面において安全・健康を第一と考え、さまざまな安全衛生活動に取り組んでいます。製造、技術開発、メンテナンスなどさまざまな職種があるなか、KYTやリスクアセスメントを活用しながら、1人ひとりの安全意識を高める活動を推進していきます。

○△□君アイデア

従業員が自由闊達な意見を発信できるツールとして、2017年4月より「○△□君(まさしくん)*アイデア」がスタートしました。これは「わたしのリクエスト」と「わたしの改善」で構成されており、「わたしのリクエスト」では、自分だけでは実現が難しいアイデアを、直接関係部門の責任者に伝えることができ、実際にこの1年間でさまざまなアイデアが採用され、グループ全体の業務改善に活かされました。「わたしの改善」では、これまでの「改善提案制度」を引き継ぎ、自分の実施したアイデアを申請することでポイントが貯まり、提出件数や合計ポイントによって表彰されます。これからも、従業員の声を受け止め、より良い会社経営につながるシステムとして進化を目指します。



アイデア

*物事をいろいろな見方をすることで「正(まさ)しく」こうなんだと真実に近づくための考え方の1つです。

リラトレ★交流ランチ会

毎月1回、拠点・本社の研修に合わせて、リラトレセンター(三浦研修所)で交流ランチ会を開催しました。研修参加者と本社勤務の従業員に広く呼びかけ、年間で延べ940名が参加しました。ビュッフェ形式で昼食を取りながら、普段は直接顔を合わせる機会の少ない従業員同士で、交流を図ることができました。



交流ランチ会の様子

イコピーブルのつぶやき



子どもの保育園への送迎に自転車を利用しています。
1日12km自家用車と比べると年間835.2kgのCO₂削減につながります。

中矢 真実

第3金曜日はHAPPY FRIDAY

2017年度ミウラグループでは、毎月第3金曜日を「HAPPY FRIDAY」とし、その月に誕生日を迎える従業員をお祝いする日としました。ホッと一息つける楽しい時間を作って、職場のコミュニケーション向上を図っています。



同じ誕生日の従業員で交流



お気に入りのガウンを羽織る事で気分を上げつつ防寒しています。
窓には断熱シートを貼り、室内の熱が逃げないようにします。
少し寒いかなと思いつ度に設定しています。



千歳営業所
渡邊 美由紀

渡邊 美由紀

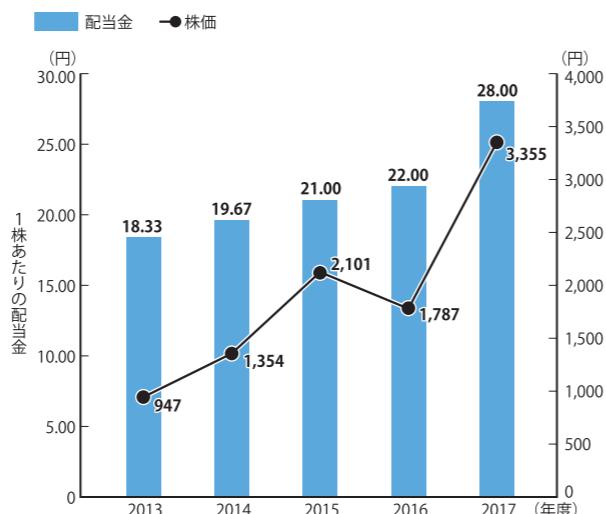
財務・非財務データ

■財務指標

●連結売上高、連結経常利益の推移



●1株あたりの配当金と株価の推移



■総排出量の削減

2013年度を基準年として、集計範囲は、ISO14001認証サイト(本社地区及び北条地区)としています。

総排出量^{※1}の削減目標

2013年度原単位^{※2}比で
4% 削減

※1 総排出量：国内のISO14001認証サイトにおける事業活動で生じた廃棄物や有価物、並びにリユース物の合計値です。

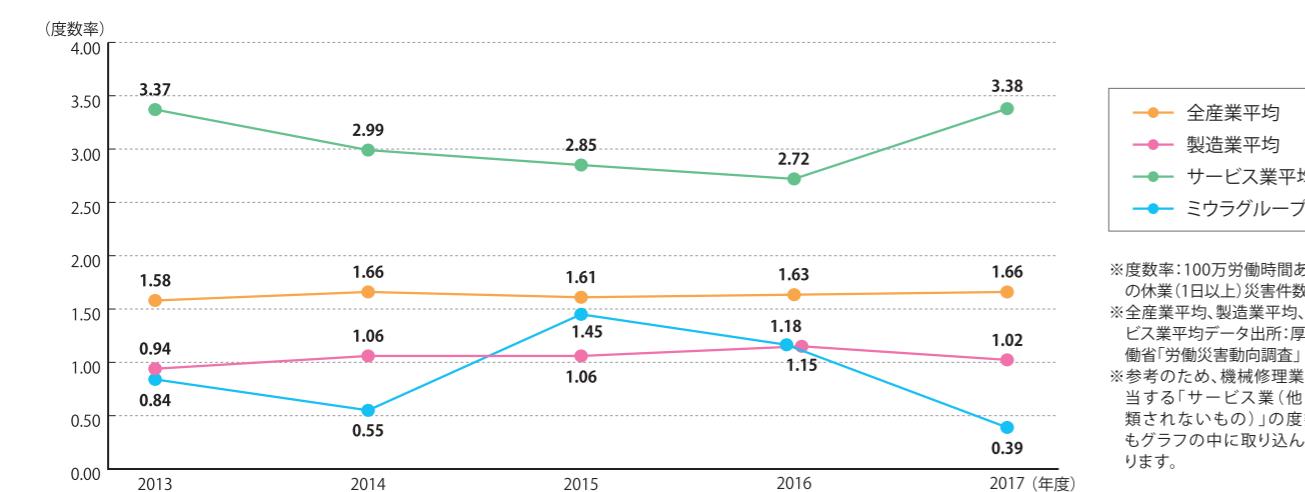
※2 原単位：総排出量やリユース量、OA紙購入量を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた値で、2013年度の値を100%として比較しています。

総排出量の削減実績

2013年度原単位比103.1%で
3.1% 増加

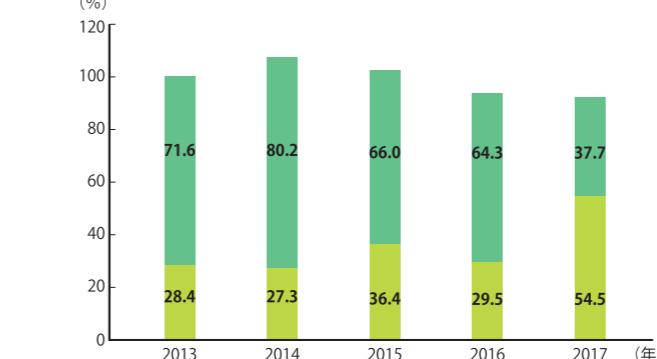
■従業員関連データ

●休業災害度数率



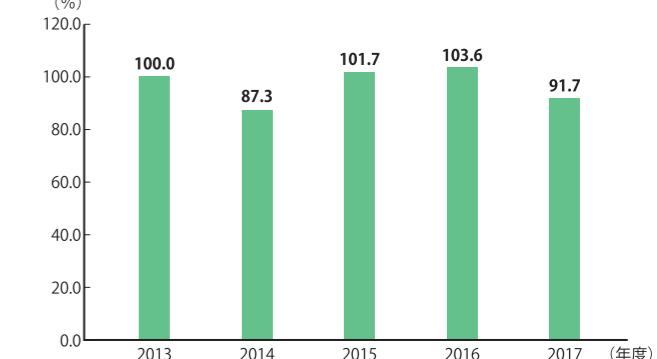
●総排出量の原単位比推移

●リユース量の原単位比推移



●リユース量の原単位比推移

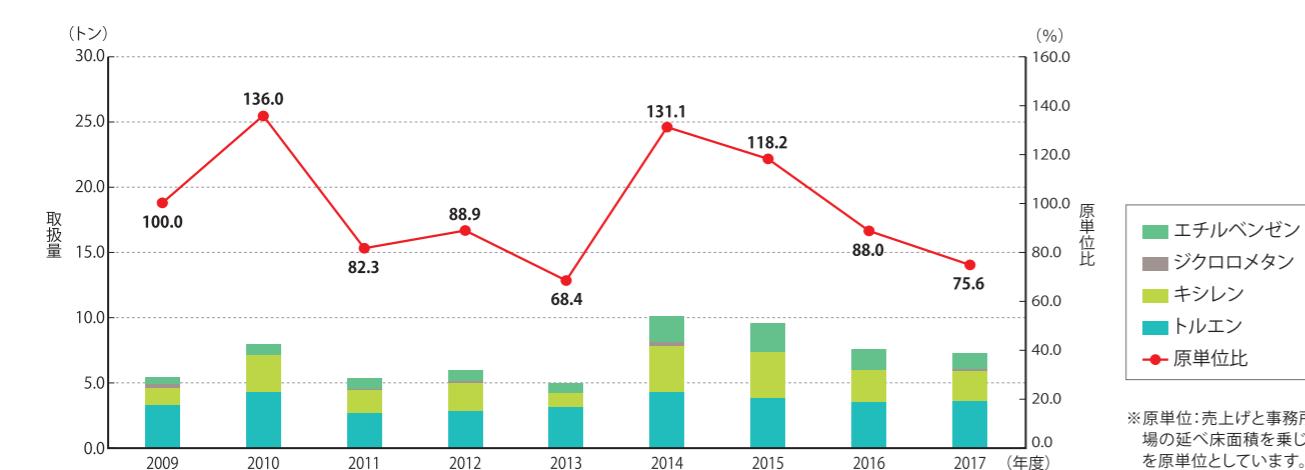
●水使用量(上水+井水)の原単位比推移



■化学物質管理データ

集計範囲は、PRTR法定期報告対象の本社地区と北条地区としています。

●VOC取扱量と原単位[※]比推移



■エネルギーの有効利用

2013年度を基準年として、集計範囲は省エネ法定期報告対象のミウラグループとしています。 CO₂はその年度の「電気事業者別排出係数」を使用しています。

エネルギーの削減目標

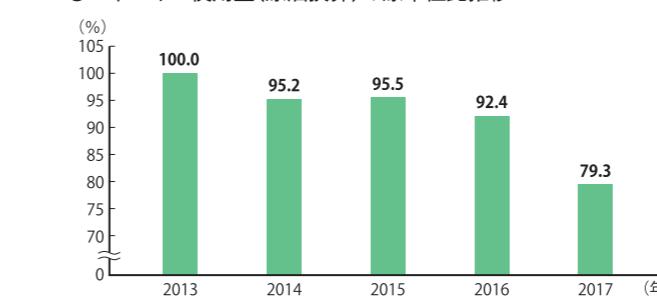
2013年度原単位[※]比で
4% 削減

※原単位：エネルギー使用量やCO₂排出量を売上げと事務所・工場の延べ床面積を乗じた値で、2013年度の値を100%として比較しています。

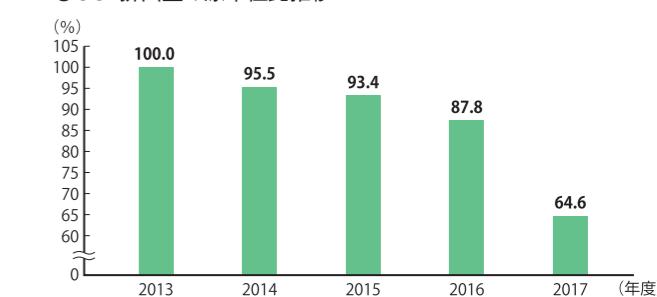
エネルギーの削減実績

2013年度原単位比79.3%で
20.7% 削減

●エネルギー使用量(原油換算)の原単位比推移



●CO₂排出量の原単位比推移



「ミウラグループCSR報告書2018」を読んで



藤近 雅彦氏

・帝塚山大学 経済経営学部 非常勤講師
・滋賀県立大学 環境科学部 非常勤講師
・立命館大学 経済学部／経営学部
非常勤講師
・関西学院大学 経済学部 非常勤講師

学歴

神戸大学大学院 経営学研究科 博士課程後期課程 修了
博士(経営学)

主な著書・論文

『CSRの基礎 一企業と社会の新しいあり方』(共著、中央経済社、2017)
『社会課題への適応からみた日本社会のCSRマネジメント』(2014)
『日本企業の取り組むCSRの課題 -ISO26000を通しての考察-』(2011)
『金融機関のCSRにおけるマテリアリティ分析』(2009)

ミウラグループでは設立60周年となる2019年に向けて、さまざまな取り組みと改革を進めています。ミウラグループの企業理念には「環境にやさしい社会」「きれいで快適な生活」の2つが重要なキーワードとして位置付けられています。これは事業領域の拡大やさらなるグローバル化を背景に、ミウラグループが100年企業となるためにすべてのステークホルダーに対して提供してゆく価値にほかなりません。

冒頭の「トップコミットメント」で宮内大介社長が掲げられた「トータルソリューション」とは、これら2つのキーワードを実現していくための商品やサービス、ノウハウを統合した具体的な提案であり、それを展開していくのが一人ひとりの従業員です。こうした観点で本報告書の特集1~3に目を通していくと、それぞれのテーマを選ばれた理由が読み取れます。

特集1は、トータルソリューションの新しい発信拠点となる「ミウラショールーム」について紹介されており、特集3の「製品による環境貢献」と相まって、トータルソリューションの全体像を把握することができる内容となっています。

本稿執筆に当たって新ショールームを見学しましたが、ここでは「トータルソリューション」の具体例やそれを支える製品、技術が紹介されているだけでなく、創業者・三浦保氏のたどった道のりや遺した言葉、録音された肉声から、氏の事業やステークホルダーに対する思いも偲ぶことができ、ミウラグループの価値観を理解するうえから、社外の方々のみならず、社内的にも意義深い充実した展示内容です。特集1の誌面から、その一端が感じられるのではないかでしょうか。

ダイバーシティ・マネジメントについて紹介した特集2は「我々はわが社を最も働きがいのある、最も働きやすい職場にしよう」とするミウラグループのモットーを、どう形に

しているのかを紹介しています。働き方改革が叫ばれるなかで本当に大切なことは、所管部署や制度を設けることではなく、実質的にそれらが機能できるようにする姿勢です。ミウラグループにおいては、積極的に子育て中の従業員の短時間勤務制度などを導入してきた経緯がありますが、着目すべきは制度設計や運用に当事者が参画するなどして、制度が活用しやすい社内風土を醸成してきた点だといえるでしょう。従業員へのインタビューでも「利用者が多いから、必要以上の気兼ねなく申し出ることができる」との声がありました。まさに使える制度のあり方に配慮してきた努力の証左だと感じました。

報告書の構成では、ESG(環境、社会、コーポレートガバナンス)の3つの側面を軸とし、さらに「持続可能な開発目標(SDGs)」に掲げられた目標との関連を明らかにして見直しされました。これにより分かりやすさが向上している点も、今年の大きな特徴といえるでしょう。

ミウラグループは2017年3月期の決算において連結ベースの売上高が1,000億円を超えるました。以後においてもその躍進ぶりは著しいものがあり、まさに業界と地域経済両方のけん引役といつても過言ではありません。これは同時に、CSRの面においても一段と高い期待が寄せられるようになっていることを意味します。

新規ビジネスと既存ビジネスのシナジーを創出する中の環境・社会・経済の鼎立、さらなるサプライチェーンへのCSR展開、あるいはペーパーレス化にともなう働き方の見直しなど、課題は山積しています。三浦保氏の遺された言葉「考える楽しさを味わおう」に思いを馳せつつ、さらなる高みを目指されることを期待しています。

取締役常務執行役員
管理本部本部長

福島 元司

藤近様にはミウラグループのCSR報告書への貴重な意見を頂戴し、感謝申し上げます。

2018年の報告書では、ミウラグループの企業価値をお伝えする新しいシンボルである新ショールームの完成や、社員の多様な働き方を尊重したダイバーシティ活動への取り組みを紹介しています。

2017年の特集にもありました、ミウラグループを支える‘人財’について今回はダイバーシティ・マネジメント活動について掲載しました。社員一人ひとりが「モットー」を理解し、ワーク・ライフ・バランスの取れたエクセレントカンパニーを実現させるための制度の策定と運用を行ってまいりましたが、2018年度からは業界に先駆けて三浦工業全社員対象としたフレックスタイム制度の導入を実施しました。今後も従業員の声を聞き、企業にとって最大の財である‘人財’をより良い方向へ導くための制度の拡充や研修などの教育を充実させていきたいと考えています。

また、2017年にご指摘いただいた「サプライチェーンへのCSR展開」について、主要8社を対象に「PC交流会」を定期的に開催し、部品製作および加工時のCO₂排出量の抑制への取り組みなど自社のCSR活動への理解と情報共有活動を今後も実施していきます。さらに、「社員への意識づけ」に関してはSDGsに挙げられている世界共通的社会的課題をグループ社員一人ひとりが自分事として取り組みが行えるよう教育を推進してまいります。

藤近様には、ミウラグループが社会的課題に取り組んでいくにあたっての、貴重なご意見、ご提案をいただきました。真摯に受け止め、検討を進め今後の活動に活かしていきたいと考えています。

最後になりましたが、本報告書をお手に取ってくださったステークホルダーの皆さんにミウラグループの愛(取り組み)を感じていただければ幸いです。



新ショールーム CSR活動の紹介

編集方針

本報告書はミウラグループのCSR(企業の社会的責任)を果たすための基本的な考え方や、取り組みに関する2017年度の実績と、今後の計画を報告するものです。CSR活動でとくに重要と考えている環境、品質とCS(顧客満足度)、人材育成や社会貢献といったキーワードを中心に、各ステークホルダー(ミウラグループと関わるさまざまな利害関係者)からの関心が高いと思われることや、ミウラグループがとくに注力していることを優先的に報告しています。

対象範囲

国内グループ会社および海外グループ会社については、一部含まれない会社もあります。

報告対象期間

2017年4月1日～2018年3月31日

但し、本文の記述のなかには一部過去と、直近の情報も含まれています。

ウェブサイトでの情報開示

ミウラグループのCSR・環境情報は、ウェブサイトでもご覧いただけます。

ミウラグループCSR報告書2017の読者アンケートの結果についてはウェブサイトに公開しています。

<http://www.miuraz.co.jp/>

お問合せ先

三浦工業株式会社 ブランド企画室

[Tel] 089-979-7019 [E-mail] info_miuraz@miuraz.co.jp